

ICUにおける重症患者の腹臥位療法への取り組み

集中治療部

腹臥位療法とは...

急性呼吸不全の治療のひとつとして行われます。

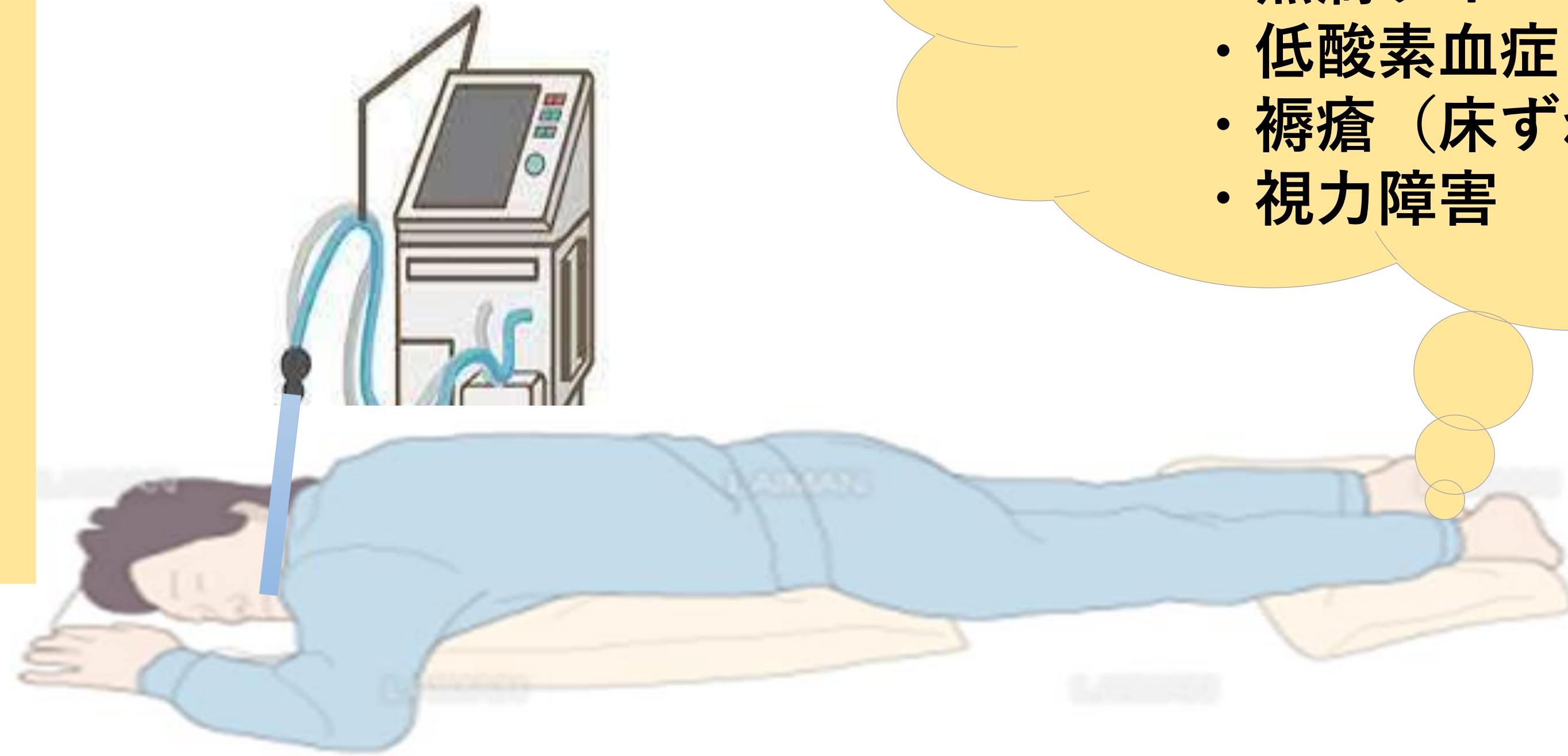
患者さんをうつ伏せ（腹臥位）にすることにより背中側の肺の空気を取り込みを改善させ、**均一な換気をさせることで肺への障害を防ぎます。**

現在は、新型コロナウイルス感染症をはじめとする重症呼吸不全患者への腹臥位療法を積極的に行っています。

ICUに入室する患者さんは、気管内チューブなどの生命維持に重要なカテーテル類が挿入されています。そのため、腹臥位療法は事故抜管などのリスクが伴います。また、同一体位に伴う褥瘡や視力障害の合併症リスクがあります。腹臥位療法を必要とする重症呼吸不全の患者さんが増加し、より安全に行うためにチェックリストを活用した方法の導入が必要でした。

腹臥位療法時の合併症

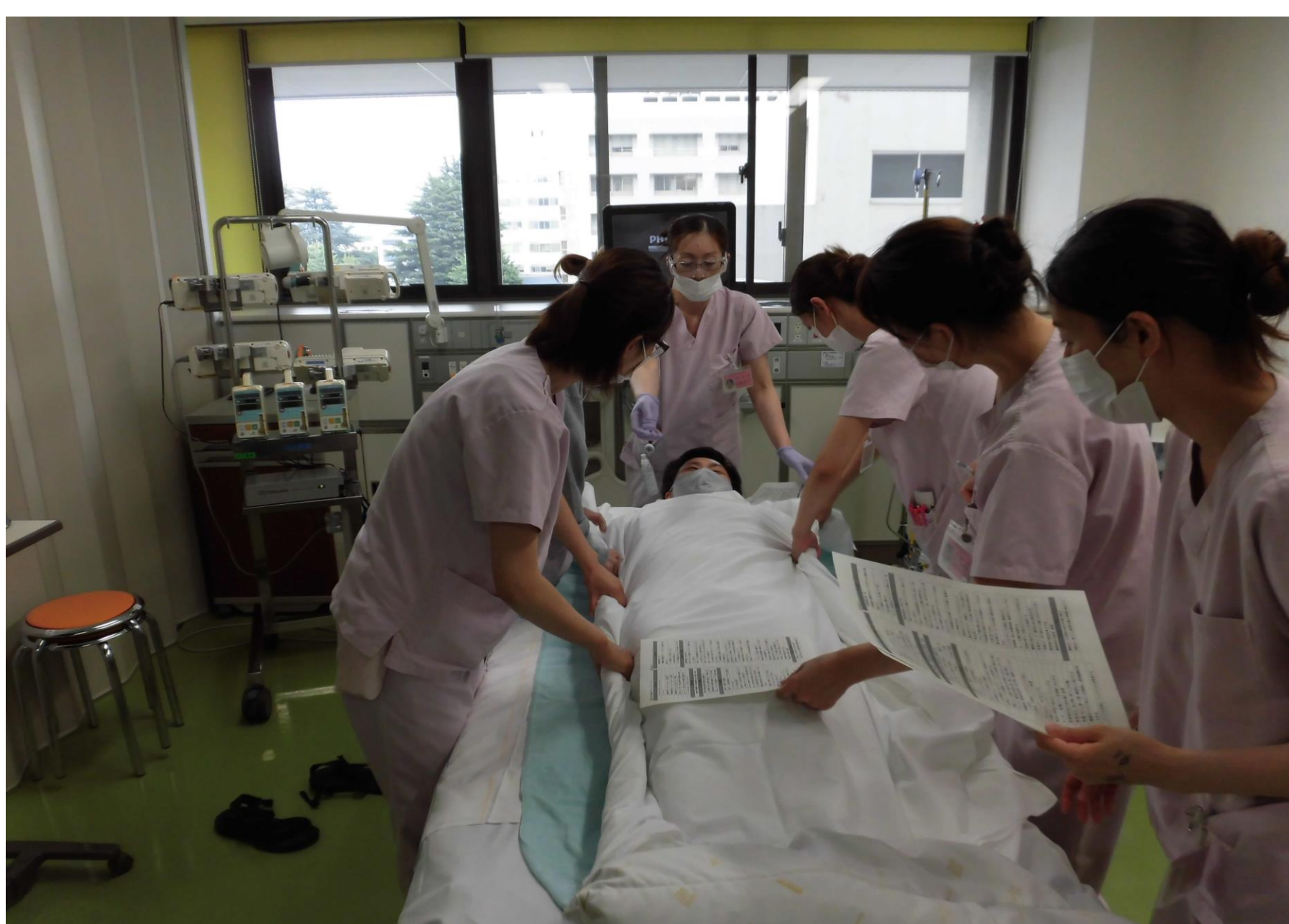
- ・ 事故抜管
- ・ 点滴ラインの事故抜去
- ・ 低酸素血症
- ・ 褥瘡（床ずれ）
- ・ 視力障害



腹臥位療法チェックリストの作成
シミュレーションの実施

統一した方法を行うことで重症患者
でも安全な腹臥位療法が行える

◎シミュレーションの実際と腹臥位療法の流れ



手順①

・ 人数

医師 1 人、看護師 4 ～ 5 人

・ 方法

床ずれ予防のため、身体で負荷がかかりやすい部位にフィルム材を貼付します。全身をシーツで包み、腹臥位にしやすいよう整えます。



手順②

- ・ 医師は気管内チューブなどを確認し、看護師は 4 人で患者さんを持ち上げうつ伏せにします。
- ・ うつ伏せにする際に、胸・腰にクッションを入れて床ずれ予防を図ります。



手順③

- ・ 気管内チューブの位置や、眼球圧迫の有無、その他全身の過度な圧迫がないか確認します。

必要物品や人数など準備が
十分になされているか

気管内チューブや点滴ライン
が引っ張られてないか

- ・ 全身状態に異常がないかモニターで確認します
- ・ 過度な圧迫がなく体勢が安定しているか

腹臥位療法は新型コロナウイルス感染症をはじめとする重症呼吸不全となった患者さんに対して有効な治療のひとつです。しかし、ICUに入室する患者さんは重症かつ多くのカテーテル類が挿入されており、リスクの伴う処置となります。今後も腹臥位療法が安全に行えるよう、シミュレーションを定期的に行い、技術を維持できるよう取り組んでいきます。